

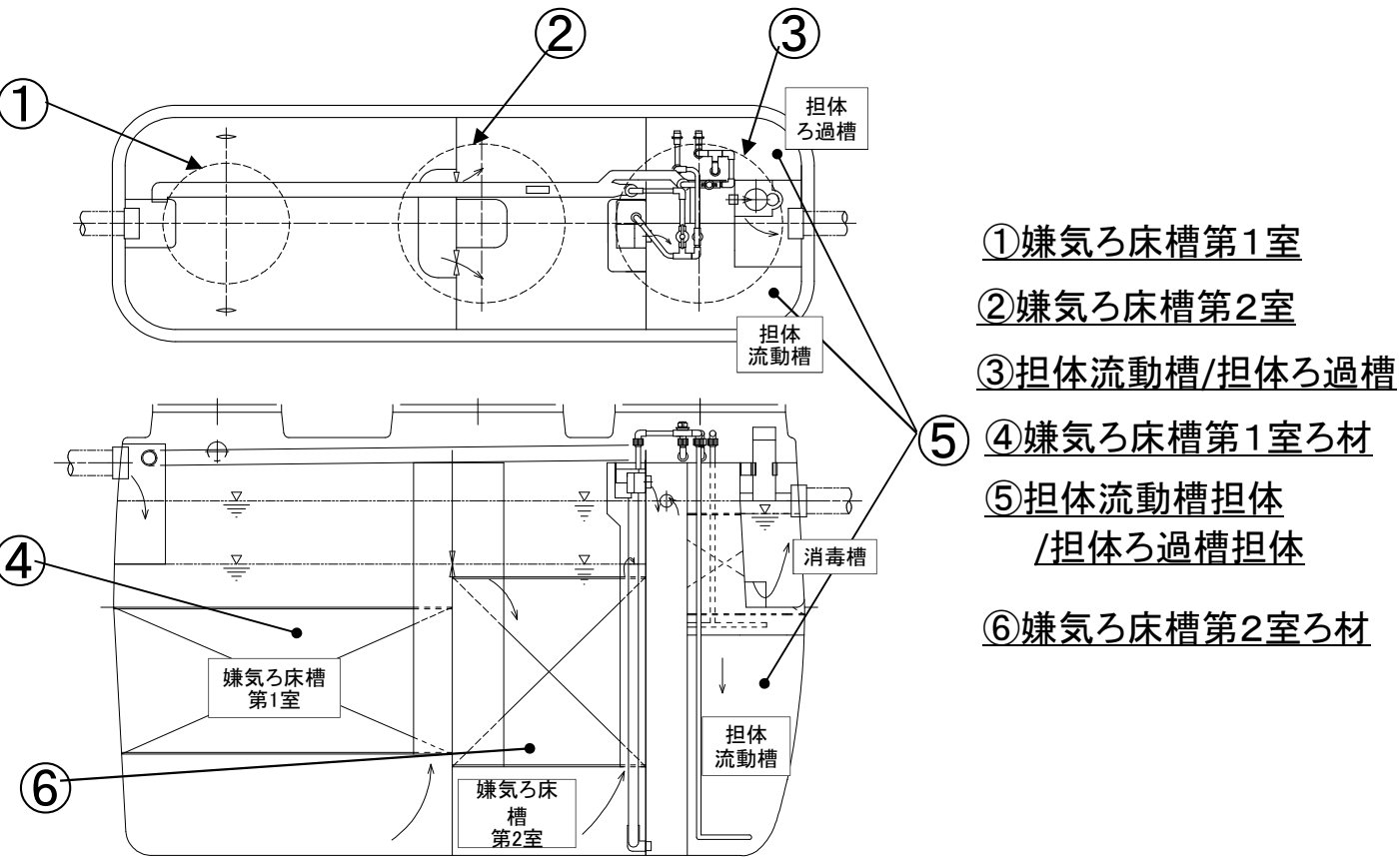
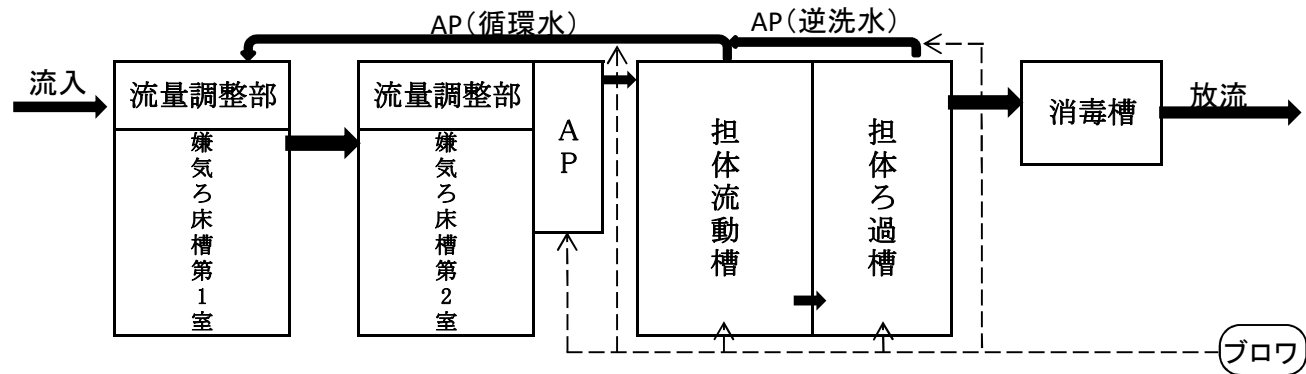
KBR1 (株)ハウステック
 OEM: SGF II 積水ホームテクノ(株)
 VRXII 前澤化成工業(株)
 処理方式: 流量調整型嫌気ろ床・担体流動生物ろ過方式
 5・7・10人槽

窒素除去型

全浄協登録値		
BOD	SS	T-N
20mg/L以下	—	20mg/L以下
性能評定または性能評価値		
BOD	SS	T-N
10mg/L以下	10mg/L以下	10mg/L以下

初期標準設定

KBR1



- ①嫌気ろ床槽第1室
- ②嫌気ろ床槽第2室
- ③担体流動槽/担体ろ過槽
- ④嫌気ろ床槽第1室ろ材
- ⑤担体流動槽担体/担体ろ過槽担体
- ⑥嫌気ろ床槽第2室ろ材

有効容量 (m ³)		5人槽	7人槽	10人槽
槽名	嫌気ろ床槽 第1室 (L. W. L)	1.210	1.900	2.135
	嫌気ろ床槽 第2室 (L. W. L)	0.730	1.060	1.430
	(流量調整部)	0.370	0.559	0.745
	担体流動槽	0.470	0.649	1.227
	担体ろ過槽	0.069	0.104	0.137
	消毒槽			0.021
合計		2.870	4.293	5.695

槽底部からろ材受け面までの距離 (mm)	第1室	400	
	第2室	350	450

流量調整装置	調整せき可動Vノッチ	循環装置	循環バルブ	逆洗装置	逆洗バルブ
有	有	有	有	有	全開

人槽	ブロウ風量 (ℓ/分)	逆洗風量 (ℓ/分)	逆洗時間 (分)	逆洗時刻	逆洗回数 (回)	逆洗周期
5	60	60	10	2:00 4:00	2	1日
7	80	80	15			
10	100	100	20			

[人槽に対する流量調整 移送水量・循環水量の設定範囲]

人槽	5	7	10
流量調整 移送水量 (ℓ/分)	2.8~4.0	3.7~5.4	5.6~7.4
循環水量 (ℓ/分)	1.9~2.4	2.7~3.2	4.0~4.5

特徴

嫌気ろ床槽 第1室・第2室とも、ろ材が充填されており、汚水がろ材を通過する際に、固形物の分離と嫌気性微生物の働きによる有機物の分解、および硝酸性・亜硝酸性窒素の脱窒が行われる。ろ床の上部は、流量調整部となっており、流入ピークを一時的に緩和する。

流量調整装置 嫌気ろ床槽第2室流出水を担体流動槽に移送する。

担体流動槽 散気装置から空気が供給され、担体の表面に付着した好気性微生物による有機物の分解、アンモニア性窒素の硝化が行われる。

担体ろ過槽 充填された中空円筒状担体 (φ12×L11mm) により、浮遊物質を除去する。タイマー制御によって槽内水が攪拌混合され、剥離汚泥を含む混合液が嫌気ろ床槽第1室に移送される。

作業時のポイント

保守点検

- ①プロフのタイマー設定 (現在時刻、開始時刻、終了時刻) を必ず確認してください。
- ②流量調整移送水量は、必ず実測して上表の水量になるよう調整してください。調整は、四角せきを上下させて行います。低水位 (L.W.L) 付近の時は、水位を30mm程度上げてから移送水量の確認、調整を実施してください。
- ③循環水量を上表の水量になるよう実測して調整してください。
- ④担体流動槽のぼっ気状態、気泡の均一な上昇、担体の流動状況を確認してください。
- ⑤手動逆洗を行い気泡の均一な上昇と逆洗移送水量の確認を行ってください。
 ※気泡が均一でない場合は、切り替えバルブのコックを閉じて強制逆洗を行ってください。

清掃

- ①嫌気ろ床槽第1室は、全量引き抜いてください。第2室は適正量にしてください。
- ②担体ろ過槽の清掃が必要な場合は、手動逆洗を行いながら汚泥を引き抜いてください。